

## 1、陳情趣旨及び理由

私は、鳥取環境大学経営学部1年でまちづくりグループ「未来をぼくらの手で」の富井篤弥と申します。今回は、鳥取駅に於いて大手書店を誘致して欲しいと願い鳥取市議会に陳情を提出しました。

さて私達、「未来をぼくらの手で」はこれまで、ジュンク堂書店の鳥取駅シャミネ二階への誘致に力を入れてきました。本書店は出店を検討して下さいましたが、最終的に鳥取の地では利益が見込めそうにないという理由からその願いを退けました。(詳しい内容については陳情の最後のページを参照。)

この様な事もあり、私たちは鳥取市にも大手書店の鳥取駅出店を促して欲しいと思いました。

ではなぜ、私たちは大手書店の誘致にこだわるのでしょうか。その理由は、四つあります。まず一つ目の理由は市民が望んでいるからです。現在鳥取駅周辺には幾つかの書店があります。しかしこれらの書店は小規模で、市民は書籍数の少なさに不便を感じているようです。それを特に感じているのが、中学生・高校生や大学生です。中学生・高校生ならば、問題集や赤本といった書籍や、漫画を欲しておりますが、個人経営の多い鳥取駅周辺にある書店は経営者の高齢化によって品揃えも中高年向けのものが多く、若者に不便さを感じさせます。また近年、鳥取市は鳥取環境大学の公立化や専門学校の建設によって多くの学生が住むまちとなりましたが、そこに於いても、参考書や新書を学生が買うにあたって、書店の品揃えの少なさに嘆いております。私も現在大学生で、授業に必要な参考書を買いに多くの書店を回りましたが、見つけることが出来ませんでした。次に二つ目の理由ですが、鳥取市は(広義的な意味での)情報格差の是正を行うべきだからです。私は鳥取市に十分な書籍を買うことが出来る書店がないことについて、大きな危機感を抱いております。都市部と地方(=鳥取)の情報格差です。現在、双方の情報格差の拡大が社会問題となっておりますが、この格差は書店のあるなしによっても関係するものだと思っております。例えば、先ほどの鳥取市の高校生が不便だと思っている赤本や問題集を書店に於いて十分に手に入れられないといったことを挙げて見ると、都市部の高校生は十分な書店があるお陰で自分に合った問題集を手に入れられるのに対し、地方の高校生はその選択の余地がありません。ここに勉強関連の情報が豊富に手に入れられるかといった情報格差が生じております。多くの鳥取市民が情報によって不便と感じたり、不利になったりしない為にも私たちは、大手書店の駅誘致を行うべきだと思います。そして三つ目の理由としては、鳥取の文化の振興を図る為です。鳥取は現在、「まんが王国」を名乗っておりますが、肝心の「漫画」を十分に取り扱っている店が少ないように思われます。多くの漫画を販売するような場所が鳥取駅付近にないことから、まんが王国ととりとして、その機能を果たすためにも文化の発信地として駅付近に大型書店を誘致するべきではないのでしょうか。最後に四つ目の理由としましては、駅周辺の活性化を図る為です。大手書店を鳥取駅に誘致する事によって、情報の発信地と言う観点から書店は商店街の活性化に役立てる事も可能です。以上4つの理由から私たちは

鳥取駅の大手書店誘致の重要性を感じた訳であります。

しかし、ここで皆さんに一つ疑問が出てくると思います。「鳥取を中心に出店している今井書店さんがあるじゃないか。」と。しかし、それでは、市民の皆さんの要望に答える事も、情報格差の解決にもなりません。鳥取駅に大手書店を誘致すべきなのは、都市部と変わらないサービスの提供を行うことで都市部の情報、文化や芸能を鳥取の人々に共有させ、都市部との情報格差の是正が出来るのは大手書店しかないからです。一方、商店街に立地する小中型書店や鳥取を基盤に出店している今井書店は地元住民に活用されるようなローカルな情報発信を行っているので、そこに大きな違いが生まれています。このように、大手書店と地元の書店は目的が大きく違うのです。

### 鳥取駅周辺に書店が必要であることのまとめ

1. インターネットでの調査や、富井が通う大学における聞き取り調査の結果から、鳥取駅周辺は書店がなく不便だという声が挙げられ、また満足できる書店が欲しいとの要望が相次いだ事から、駅周辺の書店誘致は必要である。

2. 鳥取県が現在、地域活性化の為に尽力している「まんが王国鳥取」の事業であるが、それは国際まんが博の失敗などから上手く進んでいないと言える。また「まんが王国」であるのに、その漫画を販売する書店が鳥取市には少ない。これらの事から鳥取駅周辺に書店を誘致し「まんが王国」としての機能を果たすべきである。

3. 現在、ネット書店の経営規模が拡大しているが、インターネット普及率が低く、また高齢化地域である鳥取市では形ある書店は必要である。

4. 3. に加えて書店はネット書店には実現不可能な未知の出版物の出会いやコミュニティの場を創出できるという点から、地域住民の新たな教養や知識の育成の為に形ある十分な大きさの書店は必要である。

5. 図書館は必要性の高い情報を広い年代に渡って保存しており新しい情報を集中的に保存、提供する事は出来ない。それを補うように書店が存在し常に新しい情報を販売といった形で提供しているので、どちらの存在も必須だ。鳥取駅周辺にも図書館はあるが書店は小規模なものが多く両者のつり合いが取れていないので大型書店が必要であると言える。

6. 現在、鳥取駅周辺の商店街は他の都市の商店街と同じく活気が失われつつある。またそこにある書店も小規模で、置いてある出版物で若者向けが少ないといった点から、若者文化の発展の為に新書店の誘致が必要である。また他の都市の駅周辺と比べても鳥取駅周辺は十分な情報発信の地がない事から、大型書店の誘致を急ぐべきである。

7. 現在、社会問題である情報格差であるが、情報格差が発生する原因として、インターネット普及率、平均所得、年齢、地理的要因の4つが挙げられる。鳥取県はこの4つから情報弱者になり易い県である事が判明した。平均所得が全国的に見ても低い鳥取県は、情報を手に入れる手段としてのインターネットの普及率も低い。それは単なる所得格差だけでなく高齢化も影響している。また鳥取県は大都市から遠く、情報が入って来にくいという事からも情報に弱い地域になっているのである。また、そんな鳥取県鳥取市に於いて、致命的なこと

はその情報を手に入れられる場所が少ないという事だ。地理的要因もあって、書店に於ける出版物も新刊は少ない。またその販売する場所も小中規模である。情報格差が進行している現在の日本で鳥取市はさらに情報弱者となりつつあるのだ。それを食い止める為にも大型書店を誘致し都市部と同じ情報を入手できる環境を作るべきである。

8. 1～7のまとめとして鳥取駅周辺には情報格差を是正する事に尽力している大型書店を誘致する事が鳥取市民の文化、教養活動及び生活の為にも必要である。

以上が陳情趣旨及び理由です。

どうか、鳥取市は大手書店を鳥取駅シャミネ二階部分に誘致する事を決めて頂きたいと思います。誘致すると決めてくださった際には、「未来をぼくらの手で」も誘致に関して協力できることがあれば力になりたいと思います。

宜しくお願い致します。

## 2、陳情事項

J R鳥取駅のシャミネ二階部分(住所〒680-0835 鳥取市東品治町111-1 空きスペースの広さ 726 坪)に大手書店(ジュンク堂書店、紀伊國屋書店、丸善、未来屋書店、トップカルチャー)を誘致してください。

## ジュンク堂書店の工藤恭孝社長からの文通

「未来をぼくらの手で」鳥取本部は鳥取駅シャミネ二階の空きテナント(現在補強中)のジュンク堂書店誘致を行うために6月に、レポートと社長へ誘致を願う文通を封書で郵送した。郵送した後、ジュンク堂書店の担当者から検討するとの文通があったが、7月、工藤社長から直々に以下の文通があり、現状況では出店は難しいとの報告があった。

「未来をぼくらの手で」グループリーダー  
富井 篤弥 様

拝啓

地方都市の将来の生死を決めるレポート、まったく同感です。本屋が旧市街地を再活性化させるのではという仮説は、当社としても実感していることでもあり、思い上がりではなく、文化が街を創るという確信さえあります。ところが業界は危機的状況で、赤字出店はありえない現状にあります。取次が倒産の状態にあることで理解頂けるのではないのでしょうか。

鳥取に大型書店とは業界として望むことではありますが、20万人を割り込む立地(726坪)では、月商はよくても3,000万前後。家賃条件は内装をデベロッパー負担でも、共益費込みの家賃はその売上の7%相当の200万程度が限度になり、空調費を含めた水道光熱費を払えるか、どうかの経営状態になります。その上で、書店を誘致したいという環境にはなかなかありません。大型書店が全県に最低でも1店はある日本にしたいとは思っていますが、民間企業の書店には補助金さえもありません。事情をご理解頂くとともに、誘致に対し心より、感謝致します。

敬具

2014年7月3日  
株式会社ジュンク堂書店  
代表取締役 工藤 恭孝